

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館研究報告 vol.4-3; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009256

1979・9 4_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告

● 島根半島一漁村における漁撈慣行——大胡 修

モンゴル人民共和国の伝統的物質文化

——ビャトキナ著『モンゴル人民共和国のモンゴル人』から——加藤九祚

国立民族学博物館所蔵の第一次東南アジア稲作調査団採集のカゴ細工について——坪郷英彦

● ヨーロッパの民俗学・民族学博物館——1978年夏の訪問記録から——杉本尚次

国立民族学博物館西アフリカ学術調査概報——和田正平



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

4 卷 3 号

1979年9月

目 次

島根半島一漁村における漁撈慣行……………	大 胡 修…………	379
モンゴル人民共和国の伝統的物質文化 ——ビャトキナ著『モンゴル人民共和国のモンゴル人』から—— ……	加 藤 九 祚…………	404
国立民族学博物館所蔵の第一次東南アジア稲作 調査団採集のカゴ細工について……………	坪 郷 英 彦…………	469
ヨーロッパの民俗学・民族学博物館 ——1978年夏の訪問記録から—— ……	杉 本 尚 次…………	493
国立民族学博物館西アフリカ学術調査概報……………	和 田 正 平…………	525
集 報 ……		543
国立民族学博物館研究報告寄稿要項……………		554
国立民族学博物館研究報告執筆要領……………		556

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 4 No. 3

September 1979

OGO, Osamu	Notes on Fishing Activities in Okidomari, Shimane Prefecture 379
KATO, Kyuzo	Traditional Material Culture of the Mongols-Explanatory Notes and a Translation of "Mongol of the Mongolian People's Republic" 404
TSUBOGO, Hidehiko	A Collection of Baskets from Southeast Asia 469
SUGIMOTO, Hisatsugu	Folklore and Ethnology Museums in Europe: Survey taken in the Summer of 1978 493
WADA, Shohei	Preliminary Report of the West African Ethnographic Survey 525

彙 報

(昭和54年4月～
昭和54年6月)

人事異動

(行政職) (採用)

4月1日 事務官 大矢 修

6月1日 事務官 井上明夫

事務官 山崎裕夫

(昇任)

4月1日 管理部長 木村 誠(文部省学術
国際局留学生課長補佐)

文部省学術国際局ユネスコ国際部
企画官 宮本繁雄(管理部長)

企画課長 村瀬庄蔵(文部省学術
国際局ユネスコ国際部国際学術課庶
務係長)

庶務課長補佐 古川浩資(大阪大
学庶務部庶務課庶務掛長)

監査係長 山口武美(大阪大学工
学部経理課経理掛予算主任)

用度係長 瑤美川勉(大阪大学基
礎工学部経理掛予算主任)

製作係長 樋尻辰巳(大阪大学経
理部経理課用度掛用度経理主任)

文献図書係長 泉 文雄(大阪大
学附属図書館整理課受入掛雑誌主
任)

(配置換)

施設課長 亀之園藤吉(宮崎医科
大学施設課長)

文部省管理局教育施設部福岡工事
事務所長補佐 和田昭三(施設課長)

大阪大学庶務部国際主幹 宮内盈
義(企画課長)

大阪大学学生部学生課長補佐 上
田 進(庶務課長補佐)

(転任)

大阪大学社会経済研究所会計掛長
鹿喰康浩(会計課経理係長)

大阪大学教養部用度掛長 松浦光
雄(会計課用度係長)

大阪大学歯学部用度掛長 中村郁
男(展示課製作係長)

大阪大学附属図書館事務部閲覧課
雑誌掛長 山下 進(資料室文献図
書係長)

福井大学工学部 岡倉治己(技術
室標本整備係)

5月1日 文部省大臣官房調査統計課 盛本
力(資料室映像音響資料係)

(併任)

4月1日 文部省学術国際局研究機関課 坂
本邦夫(会計課主計係主任)

(館内配置換)

会計課経理係長 中尾仁三(会計
課監査係長)

(教育職) (採用)

5月1日 助教授 井狩彌介

助教授 大丸 弘

助教授 森田恒之

(併任)

第4研究部長 加藤九祚(教授第
1研究部)

第5研究部長 祖父江孝男(教授
第1研究部)

第4研究部長解除 祖父江孝男
(教授第1研究部)

第5研究部長解除 佐々木高明
(教授第2研究部)

客員研究部門担当教官

昭和54年度における客員研究部門担当教官
は、下記のとおりである。

(4月1日現在)

第1研究部

教授 佐口 透(金沢大学法文学部)

教授 高取正男(京都女子大学文学部)

助教授 宮田 登(筑波大学歴史・人類学
系)

第2研究部

- 教授 石井米雄（京都大学東南アジア研究センター）
 教授 中根千枝（東京大学東洋文化研究所）
 助教授 青木 保（大阪大学人間科学部）
 助教授 松園万亀雄（横浜国立大学教育学部）

第3研究部

- 教授 大林太良（東京大学教養学部）
 教授 富川盛道（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）
 助教授 谷 泰（京都大学人文科学研究所）
 助教授 長島信弘（一橋大学社会学部）

第4研究部

- 教授 増田昭三（東京大学教養学部）
 教授 佐藤信行（広島大学総合科学部）
 助教授 米山俊直（京都大学教養部）
 助教授 畑中幸子（金沢大学法文学部）
 助教授 牛島 巖（筑波大学歴史・人類学系）

第5研究部

- 教授 木村重信（大阪大学文学部）
 教授 長尾 真（京都大学工学部）
 助教授 崎山 理（広島大学総合科学部）
 助教授 田中二郎（京都大学霊長類研究所）

運営協議員の異動

（新任）

- 4月1日 君島久子 国立民族学博物館教授
 竹村卓二 国立民族学博物館教授
 加藤九祚 国立民族学博物館教授
 杉本尚次 国立民族学博物館教授

館内各種委員会

6月1日付で設置。（○印は委員長）

標本資料収集委員会

- 伊藤幹治, 佐々木高明, 竹村卓二, 杉村

棟, 福井勝義, 黒田悦子, 大丸 弘, 松山利夫, 稲井豊秀, 内田正英

映像・音響資料収集委員会

- 伊藤幹治, 佐々木高明, 和田祐一, 杉本尚次, 藤井知昭, 大森康宏, 山本順人, 櫻井哲男, 稲井豊秀, 内田正英

図書委員会

- 伊藤幹治, 佐々木高明, 小谷凱宣, 守屋毅, 松澤員子, 井狩彌介, 和田正平, 宮本勝, 稲井豊秀, 内田正英

展示委員会

- 祖父江孝男, 大給近達, 杉本尚次, 大塚和義, 大森康宏, 木村 誠, 村尾 康

資料管理委員会

- 佐々木高明, 中村俊亀智, 大塚和義, 森田恒之, 煎本 孝, 小川 了, 内田正英, 坂東瑞昭

情報システム委員会

- 佐々木高明, 松澤員子, 栗田靖之, 端 信行, 小山修三, 杉田繁治, 山本順人, 八村廣三郎, 福川圭子, 稲井豊秀, 内田正英, 坂東瑞昭

広報普及委員会

- 加藤九祚, 君島久子, 井狩彌介, 小山修三, 垂水 稔, 石毛直道, 中山和芳, 山本紀夫, 泉 幽香, 木村 誠, 永野茂信, 稲井豊秀, 村瀬庄蔵

出版委員会

- 加藤九祚, 竹村卓二, 中村俊亀智, 友枝啓泰, 江口一久, 藤井龍彦, 垂水 稔

大学院委員会

- 祖父江孝男, 伊藤幹治, 和田祐一, 杉本尚次, 木村 誠

国内資料調査委員会

- 佐々木高明, 中村俊亀智, 大塚和義, 守屋毅, 大丸 弘, 松山利夫, 大胡 修, 中牧弘允, 稲井豊秀, 内田正英, 坂東瑞昭

館内各種委員会委員の追加

展示場管理運営委員会

4月1日 木村 誠

集 報

6月1日 祖父江孝男, 森田恒之
環境保全委員会
4月1日 木村 誠, 亀之園藤吉, 村瀬庄
蔵
防災対策委員会
6月1日 祖父江孝男, 佐々木高明, 伊藤
幹治, 加藤九祚, 木村 誠, 永野茂信, 稲
井豊秀, 亀之園藤吉, 村瀬庄蔵, 村尾 康,
内田正英, 坂東瑞昭

各個研究

昭和54年度における各個研究の研究課題は
下記のとおりである。(*は客員研究部門担当
教官)

第1研究部

祖父江孝男——日本人パーソナリティの再
検討—他民族との比較再考
および時代的変化・地域差
の分析
君島 久子——華南に於ける種族集団と民
間伝承の研究—伝承と竜舟
祭
竹村 卓二——ヤオ族の族譜の構造分析と
エスノヒストリーの再構成
*佐口 透——新疆ウイグル人の民族文化
史—文献的研究を中心に
中国イスラム社会の研究
*高取 正男——日本の古代文献にみられる
禁忌意識の展開—死生の忌
みと聖域信仰を中心に
日本の仏教民俗としての修
正会, 修二会の乱声と後戸
の護法神
小谷 凱宣——エスキモー文化史の研究
大塚 和義——アイヌの熊送り儀礼
守屋 毅——民間祭式習俗に見出される
「つくりもの」について
*宮田 登——日本における神・仏信仰の
調査研究
日本における民俗学と民族
学の関連についての学説史

的研究

松山 利夫——東アジアにおけるバラノフ
ァジーの研究
大胡 修——日本村落社会の構造的特質
についての研究(その1)
—海村社会の構造的特質
煎本 孝——カナダ国サスカチワン州ワ
ラストンレイク地区におけ
るチペアン・インディアン
の生態人類学的研究
中牧 弘允——東洋系宗教の伝播に関する
研究
ハワイ日系人の宗教に関す
る研究
中山 和芳——マイクロネシア, カロリン群
島における社会・文化変化
の研究

第2研究部

佐々木高明——南島における伝統的農耕技
術の展開
*石井 米雄——南方上座部仏教サンガの比
較研究
*中根 千枝——インド・ヒマラヤ地域にお
ける諸社会の比較研究
藤井 知昭——アジアにおける民族音楽の
比較研究
日本民俗音楽における感性
表現とその領域圏をめぐっ
て
杉村 棟——西アジア・北アフリカにお
ける伝統工芸の実態
友枝 啓泰——上流アマゾン流域諸族の
Ayahuasca 利用に関する民
族誌的研究
松澤 員子——パイワン族の首長制—その
儀礼的地位の分析
松原 正毅——トルコ系諸民族の社会構造
栗田 靖之——日本人の贈答慣行の研究
井狩 彌介——古代インドの祭式構造—シ
ュラウタ大祭を中心として
田邊 繁治——タイおよびランナータイ

- 稲作農村の民族誌的研究
- *青木 保——都市の人類学的研究—コロ
ンボ, バンコク, 大阪の実
態調査
新宗教運動の研究—東南ア
ジア, 日本, アメリカの比
較研究
- *松園万亀雄——東アフリカ, バントゥー諸
族の社会構造と宗教
冗談と忌避行動の比較研究
- 吉田 集而——Toba-Batak 族の Ethno-
medicine および Folk Cla-
ssification に関する研究
- 秋道 智彌——マイクロネシアにおける魚名
の比較研究
- 関本 照夫——ジャワ農村社会における社
会関係の様式とその象徴的
表現形式
- 吉本 忍——東南アジアにおける染織文
化の比較研究
中部インドにおける民族美
術の研究
- 第3研究部
- 伊藤 幹治——日本文化の構造分析
家族国家観の社会人類学的
分析
- 和田 祐一——北ハルマヘラ諸語の言語類
型論と比較言語学的研究
- *大林 太良——東アジア, 東南アジアにお
ける神聖王権
日光感精神話の研究
- *富川 盛道——アフリカ牧畜社会の変動過
程に関する比較研究—定住
化について
アフリカの民族医学に関す
る比較研究—西カメルーン
・バメンダ地方の場合
- 和田 正平——トーゴ北部の比較民族誌
- 端 信行——カメルーン高地における首
長制と仮面のシンボリズム
- 江口 一久——カメルーン北部フルベ族の
歴史詩
- 福井 勝義——アフリカにおける牧畜民の
社会生態とシンボリズムの
研究
- *谷 泰——環地中海地域の農牧にかか
わる象徴表現の比較分析
- *長島 信弘——ケニアとウガンダにおける
テセ族の民族史
儀礼の研究
- 大森 康宏——共同体「大倭紫陽花邑」の
映像的研究
映画による日本文化再発見
—京都静原における一年間
の行事
- 須藤 健——中央カロリン諸島における
伝統的航海術の民族学的研
究
- 山本 紀夫——南アメリカにおける農耕文
化の民族学的研究
- 小川 了——セネガル, フルベ族の社会
構成と口誦文芸
- 第4研究部
- 加藤 九祚——江戸時代の日本人の見たシ
ベリア諸民族
モンゴルの物質文化
- 大給 近達——文化における空間認知の形
式について
- 杉本 尚次——オセアニアにおける居住様
式の研究(2)—トレス海峡
諸島の調査とまとめ
ヨーロッパにおける野外博
物館の研究
- 中村俊亀智——日本および周囲諸地域にお
ける籠細工の比較研究
- *増田 昭三——16世紀中央アンデス農耕社
会の民族誌
中央アンデス南部高地民の
漁撈活動
- *佐藤 信行——アンデス農牧社会の民族学
的研究
韓国村落の宗教人類学的研

- 究
- 黒田 悦子——メキシコ、オアハカにみる
分業とマーケットについて
メソ・アメリカの復活祭儀
礼について
米国、ニュー・メキシコ州、
タオスにおけるインディ
アン・イスパーノ・アングロ
の関係について
- 藤井 龍彦——中央アンデス地帯先コロ
ンブス期の金属器の研究
- 小山 修三——採集民の計量的研究
- *米山 俊直——社会（集団）の名称の整理
と分析
- *畑中 幸子——パプア・ニューギニアにお
けるソーシャル・ムーブメ
ント
- *牛島 巖——オセアニアの交換体系
ヤップ島の村落 Network
の分析
ミクロネシアにおけるイモ
栽培と社会構造との相関
- 石森 秀三——中央カロリン諸島における
伝統的航海術の民族学的研
究
- 第5研究部
- *木村 重信——中部インドの先史岩壁画
東南アジアの部族社会にお
ける芸術と宗教
- *長尾 真——言語理解の構造に関する研
究
- 垂水 稔——結界および結界的事象の文
化人類学的研究
- 大丸 弘——ヨーロッパ型衣習慣の形成
および19世紀以後における
その変容・拡散の過程—後
者に関連してとくにOrientalism
の影響について
- 杉田 繁治——言語情報処理に関する基礎
的研究
- 森田 恒之——彩色材料および着彩技術の

- 比較研究
- 石毛 直道——料理文化の比較研究
- 野村 雅——日本人の基本的動作に関す
る民族学的研究
- *崎山 理——ミクロネシア諸語を中心と
したオーストロネシア語族
の比較研究
インドネシア語、ジャワ語
と日本語との間の表現法に
関する対照研究
- *田中 二郎——アフリカの狩猟採集民につ
いての狩猟技術の比較研究
アフリカの遊牧民に関する
生態人類学的研究
- 泉 幽香——年中行事再考—韓国および
日本の村落生活における結
合契機をめぐる諸問題
- 宮本 勝——フィリピン諸種族の生活空
間の比較研究
- 山本 順人——音楽データ・ベースの研究
- 櫻井 哲男——韓国、渦州島の民俗音楽の
研究
楽器分類法の研究
- 八村廣三郎——図形・画像情報の計算機処
理に関する研究
- 福川 圭子——HRAF のリファレンス作
成

共同研究活動

昭和54年度における共同研究班の研究課題
および班員は、下記のとおりである。（*は共
同研究員として委嘱した館外研究者）

「心理人類学の理論的研究」

代表者—— 祖父江孝男

班 員—— 大森 康宏 *井上 忠司

*榎本 稔 *江淵 一公

*斉藤久美子 *佐々木雄司

*浜口 恵俊 *原田 直子

*藤岡 喜愛 *星野 命

「北方民族誌研究における日本人の役割（近
世以後太平洋戦争まで）」

代表者—— 加藤 九祚
 班 員—— 大塚 和義 佐口 透
 *荻原 真子 *黒田信一郎
 *佐々木利和 *原山 煌
 *堀 直 *森川 哲雄
 *山田 信夫

「“茶の文化”に関する総合的研究」

代表者—— 守屋 毅
 班 員—— 石毛 直道 佐々木高明
 福井 勝義 吉田 集而
 *熊倉 功夫 *角山 栄
 *橋本 実 *林 恵一
 *藤岡 喜愛 *村井 康彦

「華南における少数民族の伝承に関する基礎資料の調査および蒐集と分類」

代表者—— 君島 久子
 班 員—— 佐々木高明 竹村 卓二
 *五十嵐幸子 *蒲原 大作
 *直江 広治 *中江值佳子
 *新島 翠 *村井 信幸
 *渡辺弥栄子

「沿オホーツクの物質文化に関する比較研究」

代表者—— 大塚 和義
 班 員—— 加藤 九祚 小谷 凱宣
 祖父江孝男 *池上 二良
 *井上 紘一 *宇田川 洋
 *岡田 宏明 *加藤 晋平
 *菅野 茂 *其田 良雄
 *服部 健 *藤村 久和
 *藤本 強 *藤本 英夫

「民間説話の比較研究」

代表者—— 君島 久子
 班 員—— 大林 太良 *赤尾 裕久
 *浅井 亨 *稲田 浩二
 *遠藤 庄治 *太田 東雄
 *小沢 俊夫 *笠井 典子
 *立石 憲利 *三原 幸久

「憑きものを中心とした民間信仰の研究」

代表者—— 伊藤 幹治
 班 員—— 石毛 直道 石森 秀三
 須藤 健一 松原 正毅

宮田 登 *小松 和彦
 *杉藤 重信

「東アジアにおける祭祀と芸能」

代表者—— 高取 正男
 班 員—— 井狩 彌介 泉 幽香
 伊藤 幹治 櫻井 哲男
 佐藤 信行 関本 照夫
 垂水 稔 中牧 弘允
 藤井 知昭 守屋 毅

「計量的方法による民族音楽の研究」

代表者—— 藤井 知昭
 班 員—— 櫻井 哲男 長尾 真
 山本 順人 *岡本奈智子
 *小島 美子 *徳丸 吉彦
 *梁島 章子

「中央アンデス農牧社会の民族学的研究」

代表者—— 友枝 啓泰
 班 員—— 佐藤 信行 藤井 龍彦
 増田 昭三 山本 紀夫
 *大貫 良夫

「土着主義的宗教運動の基礎的比較研究」

代表者—— 友枝 啓泰
 班 員—— 青木 保 秋道 智彌
 井狩 彌介 石森 秀三
 伊藤 幹治 関本 照夫
 高取 正男 長島 信弘
 中牧 弘允 中山 和芳
 *荒井 芳廣 *井上 順孝
 *加賀谷 寛 *島菌 進
 *吉原 和男

「東南アジア慣習法における相続慣行の比較研究」

代 表—— 石井 米雄
 班 員—— 大林 太良 関本 照夫
 田邊 繁治 松澤 員子
 宮本 勝 *池端 雪浦
 *石沢 良昭 *梶原 景昭
 *北原 淳 *田村 克己
 *千葉 正士 *土屋 健治
 *友杉 孝 *湯浅 道男
 *吉川 利治

「日本における作物栽培技術の成立と展開」

代表者—— 佐々木高明
 班 員—— 石毛 直道 大塚 和義
 小山 修三 福井 勝義
 松山 利夫 山本 紀夫
 *氏原 暉男 *阪本 寧男
 *清水 建美 *高谷 好一
 *田中豊三郎 *中尾 佐助
 *八賀 晋 *堀田 満
 *俣野 敏子 *松谷 暁子
 *安田 喜憲

「牧畜社会の比較研究」

代表者—— 谷 泰
 班 員—— 梅棹 忠夫 加藤 九祚
 佐口 透 田中 二郎
 富川 盛道 野村 雅一
 福井 勝義 松原 正毅
 和田 正平 *太田 至
 *片倉もと子 *川瀬 豊子
 *小林 茂 *佐藤 俊
 *野澤 謙 *福川 昭一郎
 *松井 健 *山田 信夫

「民俗文化における象徴的表現の比較研究」

代表者—— 杉本 尚次
 班 員—— 石井 米雄 石毛 直道
 大森 康宏 小川 了
 佐々木高明 関本 照夫
 竹村 卓二 中牧 弘允
 端 信行 松原 正毅
 吉田 集而 *赤阪 賢
 *岩田 慶治 *鈴木 正崇
 *瀬川 真平 *高谷 好一
 *近森 正 *山野 正彦

「X線の利用による標本資料の内部構造および材質分析」

代表者—— 中村俊亀智
 班 員—— 大塚 和義 森田 恒之
 *五十川伸夫 *磯崎 正彦
 *小林 博昭 *後藤 勇雄
 *沢田 正昭 *鈴木 忠司
 *福井 英治 *松本 敏子

*山本 忠尚

「非破壊分析をともなう日本在来の労働衣服の比較研究」

代表者—— 中村俊亀智
 班 員—— 吉本 忍 *片山陽次郎
 *中嶋 朝子 *西垣 一郎
 *西村 綏子 *日浅治枝子
 *福田 栄治 *松中 昭一
 *山崎 光子

「ハルマヘラ島の民族誌的研究」

代表者—— 石毛 直道
 班 員—— 大胡 修 崎山 理
 佐々木高明 松澤 員子
 吉田 集而 和田 祐一

「言語データの収集と整理に関する基礎研究」

代表者—— 江口 一久
 班 員—— 小川 了 崎山 理
 杉田 繁治 和田 正平
 *梶 茂樹 *藤本 幸夫
 *宮本 正興 *吉川 守

「民族学における情報処理の研究」

代表者—— 杉田 繁治
 班 員—— 栗田 靖之 小山 修三
 佐々木高明 長尾 真
 八村廣三郎 山本 順人
 和田 祐一 *植村 俊亮
 *及川 昭文 *坂本 恭章
 *田中 琢 *辻 三郎

「イスラム世界における民族音楽の比較研究」

代表者—— 藤井 知昭
 班 員—— 江口 一久 櫻井 哲男
 杉村 棟 *鈴木 道子
 *高橋 昭弘 *龍村あや子
 *馬淵卯三郎 *水野 信男

「西アフリカのエスノ・テクノロジーに関する比較研究」

代表者—— 和田 正平
 班 員—— 江口 一久 小川 了
 田中 二郎 富川 盛道
 長島 信弘 端 信行
 福井 勝義 松園万亀雄

米山 俊直 *赤阪 賢
 *阿部 年晴 *川田 順造
 *西村 滋人 *日野 舜也
 *松下 周二 *森 淳
 *和崎 春日

「新大陸の狩猟民文化に関する研究」

代表者—— 大給 近達
 班 員—— 煎本 孝 黒田 悦子
 小谷 凱宣 小山 修三
 藤井 龍彦 *大貫 良夫
 *岡 千曲 *岡田 宏明
 *蒲生 正男 *高野 俊夫
 *宮岡 伯人 *山浦 清
 *渡辺 仁

「人類学における映像および視覚表現に関する方法論」

代表者—— 大給 近達
 班 員—— 秋道 智彌 大胡 修
 大森 康宏 栗田 靖之
 櫻井 哲男 谷 泰
 八村廣三郎 宮田 登
 山本 順人 *岩井 宏實
 *野口 武徳 *亘 純吉

「職業の成立とその分化についての比較研究」

代表者—— 野村 雅一
 班 員—— 黒田 悦子 守屋 毅
 *阿部 謹也 *小林 致広
 *重松 伸司 *末原 達郎
 *関根 康正 *田中 峰雄
 *土屋 敦夫 *夫馬 進
 *松井 健

「日本における山村文化の伝統と変容」

代表者—— 守屋 毅
 班 員—— 小山 修三 佐々木高明
 松山 利夫 *赤阪 晋
 *高桑 守 *千葉 徳爾
 *福田 栄治

「中央カロリン諸島における伝統的航海術の民族学的研究」

代表者—— 石森 秀三
 班 員—— 秋道 智彌 須藤 健一

「日本文化に関する情報の国際的システム化」

代表者—— 祖父江孝男
 班 員—— 大胡 修 栗田 靖之
 小山 修三 杉田 繁治
 松澤 員子 守屋 毅
 *高重 進 *間壁 忠彦
 *米村 昭二

合同研究会

4月11日 「身体表現の民族学」
 野村 雅一
 5月23日 「民族学における映画の利用—
 —新しい民族誌映画の紹介—」
 祖父江孝男 大森 康宏

国際シンポジウムの開催

(The Third International Symposium, Division of Ethnology, The Taniguchi Foundation)

テーマ 「採集社会の成熟——太平洋の西と東」
 (The Affluent Foragers: Pacific Coasts East and West)

日 時 昭和54年6月11日(月)—18日(月)

場 所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合研究所求是荘

摘要 第3回谷口財団国際シンポジウムがアメリカ, フィリピン文化人類学者7名を招聘して, 本館ならびに財団法人民族学振興会千里事務局の共催, 財団法人谷口工業奨励会45周年記念財団の後援によって, 開催された。シンポジウムの前半は本館で, 後半は大津市堅田の東洋紡績総合研究所求是荘に会場を移して行なわれた。期間中に3つのセッションが持たれ, 活発な討論が展開された。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第1研究

彙 報

部長
 佐々木高明 国立民族学博物館第2研究
 部長
 伊藤 幹治 国立民族学博物館第3研究
 部長
 加藤 九祚 国立民族学博物館第4研究
 部長
 木村 誠 国立民族学博物館管理部長
 実行委員会
 委員長
 小山 修三 国立民族学博物館助教授第
 4研究部
 委員
 小谷 凱宣 国立民族学博物館助教授第
 1研究部
 栗田 靖之 国立民族学博物館助教授第
 2研究部
 松山 利夫 国立民族学博物館助手第1
 研究部
 永野 茂信 国立民族学博物館管理部庶
 務課長
 湯浅 叡子 財団法人民族学振興会千里
 事務局長
 宇治日出二郎 財団法人民族学振興会千
 里事務局事業課長

参加者

・報告者
 塚田 松雄 第4紀研究センター教授
 Dr. Mark Research Fellow, Center
 Nathan Cohen for Advanced Study in the
 Behavioral Sciences
 小山 修三 国立民族学博物館助教授第
 4研究部
 Dr. M. A. Professor, Department of
 Baumhoff Anthropology, University
 of California
 Dr. David Chairman, Department of
 Hurst Thomas Anthropology, American
 Museum of Natural His-
 tory
 松山 利夫 国立民族学博物館助手第1

研究部
 赤沢 威 国立科学博物館研究員
 Dr. Randall Research Archaeologist,
 Francis Schalk Washington Archaeologi-
 cal Research Center
 Washington State Univer-
 sity
 杉田 繁治 国立民族学博物館助教授第
 5研究部
 及川 昭文 筑波大学講師学術情報処理
 センター
 Dr. Jesus T. Curator, National Museum,
 Peralta Manila
 Dr. Kwang- Professor, Department of
 Chin Chang Anthropology Harvard
 University
 小谷 凱宣 国立民族学博物館助教授第
 1研究部
 Dr. C. Professor, Department of
 Melvin Aikens Anthropology University
 of Oregon

日 程

6月11日(月)
 国立民族学博物館見学
 館長主催レセプション
 6月12日(火)
 9:00—9:30
 開会式
 挨拶 梅棹館長 Dr. Baumhoff
 基調報告 佐々木高明
 「日本における成熟せる採集社会から農
 耕へ」
 第1セッション——採集社会：環境，資源，
 人口
 9:45—12:15
 採集社会：環境，資源，人口—(A)
 14:00—16:30
 採集社会：環境，資源，人口—(B)
 6月13日(水)
 9:30—12:00
 採集社会：環境，資源，人口—(C)
 14:00—16:30
 採集社会：環境，資源，人口—(D)

6月14日(木)
 9:30—13:00
 第2セッション——コンピュータ民族学の方法論
 15:00
 京都へ移動
 17:30
 谷口豊三郎氏主催晩餐会(京都)
 6月15日(金)
 京都見学
 17:00
 大津へ移動
 6月16日(土)
 第3セッション——採集から農耕へ
 13:00—16:30
 採集から農耕へ(A)

6月17日(日)
 9:30—12:00
 採集から農耕へ(B)
 14:00—16:15
 総合討論
 16:15—16:30
 閉会式
 挨拶 佐々木高明
 18:00
 民族学振興会千里事務局主催サヨナラパーティー
 6月18日(月)
 10:00—12:00
 ワークショップ
 午後
 解散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	出発	帰国	行先
祖父江孝男 教授(第1研究部)	54. 4. 7	54. 4. 17	アメリカ合衆国
佐々木高明 教授(第2研究部)	54. 4. 17	54. 5. 1	インド, ネパール
守屋 毅 助教授(第1研究部)	54. 4. 17	54. 5. 15	インド, ネパール, タイ
松澤 員子 助教授(第2研究部)	54. 4. 30	54. 10. 30	スイス, 連合王国, アメリカ合衆国
石毛 直道 助教授(第5研究部)	54. 5. 6	54. 5. 28	チリ, 仏領ポリネシアタヒチ島, フィジー国, アメリカ合衆国
秋道 智彌 助手(第2研究部)	54. 5. 26	55. 3. 13	アメリカ合衆国, アメリカ合衆国信託統治領太平洋諸島
石森 秀三 助手(第4研究部)	54. 5. 26	55. 3. 13	アメリカ合衆国, アメリカ合衆国信託統治領太平洋諸島
須藤 健一 助手(第3研究部)	54. 5. 26	55. 3. 13	アメリカ合衆国, アメリカ合衆国信託統治領太平洋諸島
中牧 弘允 助手(第1研究部)	54. 6. 5	54. 9. 30	アメリカ合衆国, ドミニカ, ハイチ, ジャマイカ
加藤 九祚 教授(第4研究部)	54. 6. 8	54. 6. 22	ソビエト連邦共和国
江口 一久 助教授(第3研究部)	54. 6. 15	54. 8. 31	アメリカ合衆国, カナダ, ナイジェリア, フランス
和田 祐一 助教授(第3研究部)	54. 6. 20	54. 8. 10	インドネシア共和国

彙 報

来館者抄

昭和54年

- 4月3日 西田 秀穂 (東北大学教授)
6日 傅 懋 勳 (中国社会科学院民族研究所副所長)
吳 沢 霖 (同 研究員)
7日 板垣 雄三 (東京大学助教授)
13日 青木 恒 (Ontario Science Center)
19日 Robert SMITH
(Cornell University)
23日 有賀喜左衛門 (日本常民文化研究所理事長)
田中忠三郎 (北海道・東北民具研究会, 日本民具学会幹事)
5月4日 Karen ZIEN
(Boston Children's Museum)
Michael VOLKERLING
(Arts Council of New Zealand)
Horst KLENGEL
(Akademie der Wissenschaften der DDR)
Donald Low
(Australia National University)

- Raymond MARTIN
(Monache University)
Rupert MYERS
(University of New South Wales)
M. V. KRYUKOV
(Academy of Sciences of the USSR)
W. KURYLEW
(Academy of Sciences of the USSR)
6月4日 白田甚五郎 (国学院大学教授)
関 敬吾 (日本口承文芸学会・前会長)
24日 中国社会科学院訪日代表团
夏 竦 (考古学者・考古研究所長)
任 繼 愈 (世界宗教研究所長)
黎 樹 (近代史研究所副所長)
唐 弼 (文学研究所研究員)
李 榮 (語言研究所副所長)
張 国 維 (中国社会科学院外事局
アジア・アフリカ処
責任者)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 4卷3号

審査委員

梅 棹 忠 夫
中 根 千 枝

祖 父 江 孝 男

編集委員

江 口 一 久
竹 村 卓 二
友 枝 啓 泰
藤 井 龍 彦

加 藤 九 祚 (編集委員長)

垂 水 稔
中 村 俊 龜 智

昭和 55 年 1 月 5 日 印 刷
昭和 55 年 1 月 10 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 4卷3号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中 西 印 刷 株 式 有 限 公 司

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.4 no.3
September 1979

OGO, Osamu

Notes on Fishing Activities in Okidomari,
Shimane Prefecture

KATO, Kyuzo

Traditional Material Culture of the
Mongols-Explanatory Notes and a Trans-
lation of "Mongol of the Mongolian
People's Republic"

TSUBOGO, Hidehiko

A Collection of Baskets from Southeast
Asia

SUGIMOTO, Hisatsugu

Folklore and Ethnology Museums in
Europe: Survey taken in the Summer of
1978

WADA, Shohei

Preliminary Report of the West African
Ethnographic Survey



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X